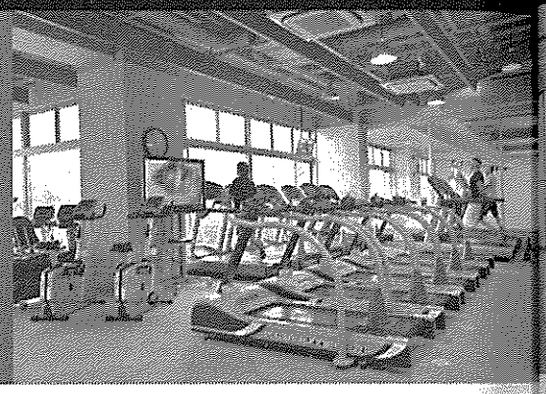
一度入ったら、そう簡単には抜け出せない

老人ホームは「格差社会」

食事も介護もまるで別物です

核家族化が進み、「おひとりさま」世帯も増えるなか、「終の棲家」として老人ホームを選ぶ人も多い。ときにマイホームに匹敵する大きな買い物にもなる施設選び。その先に待つのは天国か地獄か。



同施設のジム。専門職員が筋力維持の運動を指導する

松戸ニッセイエデンの園。食堂では入居者が談笑する

第1部 覆面調査で丸わかり

「痒いところに手が届く高級ホーム」と「痛くても放置される悪質ホーム」

「全てに満足です」

「取材の方？　いいこと、たくさん書いてね」と入居者の女性が明るい声で話しかけてきた。

JR武蔵野線市川大野駅から1km弱の、1万9561㎡という広大な敷地。ここに鉄筋コンクリート造3棟の、高級マンションのような建物が威容を誇る。居室数352戸、取材時の入居者数429人。国内有数の巨大有料老人ホーム、松戸ニッセイエデンの園だ。

敷地内には、介護付き有料老人ホームであるニッセイエデンの園以外にも、クリニック、在宅介護支援のヘルパーステーション、フィットネスクラブなどがある。フィットネスクラブ内には25mプールにジャグジー、スタジオ、ジムがあり、入居者の利用は無料だ。

本館入り口から入ると吹き抜けの広いロビーラウンジが視界に入る。中央にはグランドピアノが鎮座し、プロのピアニストを招いての音楽会も開かれるという。

落ち着いた内装、毛足のしっかりした絨毯は高級感に満ちている。陽光が降り注ぐ大食堂では、この日の昼食時、麺と肉、2種類の定食が準備されていた。ためしにそのうちのひとつ、鶏肉の香草焼きを注文してみる。味付けは薄めながらも、いわゆる老人食の味気なさはなく、盛り付けも美しい。ご飯、味噌汁、主菜、漬物、デザートで、入居者には630円の価格設定だ。総園長の彦坂浩史氏はこう話す。

「食堂は予約制で配膳はセルフサービスです。入居者の方にはお手間ですが、これらは意図的なもので、たとえば、予約があったのに来ない方には、『どうなさいました』と確認をします。

入居者の方々は、なるべく最後まで自分自身で生活を管理したいと考えている。なかには施設のサービスを一切利用しない方もいます。それでもなるべくコミュニケーションの機会を作り、生活支援を充実させるよう努めているのです。同価格帯ではホテルのように至れりつくせりのサービスを提供するところもありますが、ここではこうしたコミュニケーションに基づく生活支援を大切にしています」

別棟にある付設のクリニックは、19床の有床診療所だ。入居者の日常の健康管理や診察から急病時の治療まで対応している。24時間365日、夜間にも医師と看護師が常駐し、入居者が体調を崩しても安心だ。前出の彦坂総園長は言う。

「私どもの施設では、入居時にはお元気で自立して生活できることが入居条件になりますが、その後、介護状態になられた場合も、希望があれば最初に入居された一般居室で、できる限りサポートさせていただきます。全入居者中、介護認定者は125名。うち85名は一般居室で暮らされているのです。介護居室に移られた場合でも追加の費用はいただいておりません」

入居率は常に高く、空室が出てもすぐに埋まってしまう。取材当日には、たまたまリフォームされたばかりで空いていた一部屋に案

老人ホームは「格差社会」
食事も介護もまるで別物です

内してもらった。

晴天時には富士山も望めるという8階の角部屋は58・51㎡。室内は新築然としていた。入居者が変わるたび壁紙をはがし、全ての設備（洗面、トイレ、風呂、キッチン、クローゼットなど）を取り外して完全リフォームしているのだ。

バリアフリーで床暖房も完備。洗面台やキッチンの高さ、トイレや風呂の仕様は、車椅子の利用者にも対応するようになっている。

肝心の費用だが、この部屋に一人で入居した場合、入居一時金が4830万円。これに介護金294万円と健康管理金588万円を加え、入居時に支払う金額は5712万円となる。これでも15以上ある居室種別のうち専有面積は中ほどだ。

さらに月々の費用は、管理費6万7725円や3食30日分の食費、光熱水費などがあり、目安として月16万円ほどかかるという。

ちなみに夫婦二人で入居すると入居時の費用に1172万円が加算され、月々の費用の目安は27万円だ。

入居3ヵ月という70代の女性は、「全てに満足です。たくさんのサークルがあるからお友達もできました」と話す。まさに裕福な人々の、老後のユートピアだ。

だが、このホームのような優良老人ホームに出会い、高額な費用を用意できるのは、ごくひと握りの入居者や家族に過ぎない。

千葉県在住の永沢良男さん（61歳・仮名）はこう話す。

「ある日、親父が持病の悪化で入院していた病院から電話があって、早く引き取ってほしいと言われたのです。慌てましたね。当時、私は地元の群馬を離れてタクシー運転手をしており、帰郷して同居したり介護する余裕はありませんでした」

松戸ニッセイエデンの園の食事。味も彩りも素晴らしい

後悔先に立たず

町の福祉課に相談に行くと、費用の安い公的な特別養護老人ホームは数百人待ちと言われた。紹介された地域包括支援センターでいろいろな施設の資料を見たが、「よさそうなところは最低300万円必要だった」。

建設現場で長年、型枠工として働いてきた父親だが、持ち家も預貯金もない。永沢さん自身には借金もあり、資金に余裕はなかった。

「最終的に、入居一時金がなく、月額11万円で面倒を見てもらえる無認可のケアハウスを選びました」

郊外の畑と住宅が混在する地域にあるこの施設は、築四十数年の2階建て木造アパートを家主が改装したもの。トイレ付きの2～3人部屋が基本だが、低価格が売りの無認可施設とあって、ナースコールなどの設備も特にない。味噌汁とご飯の簡素な3回の食事時以外、職員の定時巡回はない。夜間の緊急時は入居者同士が助け合って、大家の家に電話するしかなかった。

「親父の部屋は、8畳ほどの空間にベッドが3つ並んでいました。私物などは小さなロッカーに入る分だけ。お袋の位牌と写真のアルバムを持っていきました」

居室では、永沢さんの父親のように認知機能に問題のない人も、認知症の進んだ人も混在していた。

「同室に夜間徘徊する方がいて、親父は眠れないと訴えた。すると、薄い間仕切りで仕切られただけの、狭い『個室』に移されました。

親父が死んだのは、2年後の一昨年3月。施設から『風邪をこじらせたので入院させた』と事後報告がありました。病院へ行くと、体中から肉がそぎ落とされたように痩せた親父が寝ていました。意識は朦朧としていて、私を見て笑うのですが会話もできず……。

でも、私は施設が悪いと言う気にはなれないんです。他に行くところはなかった。年老いた親父と路頭に迷うのかと不安におびえていたより、やっぱり幾分か助かった。悪いと言うなら、カネの余裕もなく、親の顔もなかなか見に行けなかった私が悪いんですよ……」

老人福祉施設の入居者や家族の相談を受け、施設の覆面実態調査なども行っている、NPO二十四の瞳の山崎宏理事長はこう話す。

「一時期よりかなり減少はしましたが、精神的・金銭的に追い込まれた利用者や家族を食い物にする悪質業者もまだまだあります。

たとえば、業界では『寝かせきり高齢者専用アパート』などと称される施設。『住宅型』を謳って行政の監督をすり抜け、入居者のリハビリなどは一切行わず、狭い部屋に重篤な人を囲う。口から食事を摂れない『経管栄養』の要介護者を集めたりします。

こうした運営会社と提携医療機関は、介護・診療報酬をフル計上する上、医師に発行させた『特別訪問看護指示書』を根拠に、診療報酬に二十数万円をプラスする。すべて国民の税金、保険料から支払われるので

第2部
予算別
「満足度」を高める老人ホーム選びのコツ

上を見ればキリがないけど、これだけは確かめておこう

す。家賃収入もあわせ、入居者1人につき100万円を荒稼ぎするケースもある」

それでも、経済的に困窮していたり、突然の事態に途方に暮れ慌てて契約した家族などは、「他に行き場所はなかった。受け入れてもらえるだけでありがたかった」という心理に陥ってしまうのだという。

こうした「老人ホーム格差」に泣かされるのは、金銭的に余裕のない人とは限らない。もちろん、求めれば高級な施設、サービスの充実度合いにはきりがない。だが施設自体は適当な値段で相応のサービスを提供していても、選び方ひとつで取り返しのつかない失敗をする可能性が誰にでもある。

とくに、入居時は心身ともに健康だった人でも、年月が経って不調が出てくると、入居当初は十分と思えた生活のサポートが不足し、いつの間にか生活の質が劇的に低下してしまう恐れもある。入居前の確認不足、施設の選択ミスという小さな「傷」が、年齢を重ねるほど広がり、やがては満足度に激しい「格差」が生じるのだ。神奈川県でマンション型サポート付き高齢者住宅に住む鈴木隆さん（78歳・仮名）はこう話す。

「入居時には『まだ元気だし、いいか』と介護保険サービスをつけなかった。ところが、体調の悪い日に管理人さんに『ゴミ出しと買い物を手伝ってもらえないか』と電話したら、『介護保険の家事援助を申し込まれていないので、できません』。これでは特別なサポートも受けられず、ただの一人暮らしと同じですが、後悔先に立たずですよ」

では実際、満足度の高い施設はどう選べばよいか。次章で詳しく見てみよう。

意識のズレが格差を生む

「まず、費用の話だけで単純化して言いますと、入居金が1000万円超の物件というのは、スタッフの給与も相応に高く、よい人材を確保しやすい。そういう意味でトラブルが起きるリスクは低いと言えるでしょう」

前出のNPO理事長・山崎氏は、老人ホーム選びの基本について、こう話す。

第1部で見たように、施設によって、入居者の生活の質に天と地の開きがある老人ホーム。さらに、同じ施設の入居者であっても、事前のイメージと実際のサービス内容にズレがあれば、「ここまでやってくれるはずだったのに」と後悔し、満足度に大きな「格差」が生じてしまう。

選択を間違えないためのポイントはさまざまあるのだが、まず気になるのが費用だろう。山崎氏はこうつづける。

「入居金100万円未満の廉価物件では、食事や娯楽設備に期待を寄せるのは難しい。最低限のセーフティネットがあればいい、というくらいに考えるほうが無難でしょう。

医療・介護の面では、廉価でもある程度、安心が確保されている物件もあります。とくに地域でも評判のいい医療法人などが運営している場合は、この点で失敗するリスクは低い」

実は、施設選びで判断がもっとも難しいのは入居金数百万円のクラスだという。

このランクは外見が立派でもサービスが悪いもの、逆に外見は頼りなくともサービスの充実しているものなど玉石混淆だからだ。

「都市部では、300万円程度の入居金だと建物や設備のレベルの高さに期待はできない。その場合、ハード面よりも医療・介護のサ

老人ホームは「格差社会」食事も介護もまるで別物です

妊婦の4人に1人が35歳以上の時代

本当は怖い高齢出産

先天異常、流産、難産……報じられない「本当のリスク」

東尾理子、野田聖子、乙武洋匡、マイケル・サンデルほか著名人の声も多数収録！

週刊現代編集部／編

971円（税込）

978-4-06-218822-7 講談社

ポートなど人件費を削らずにソフト面をどこまで充実させているかを見極めるのがポイントです」（山崎氏）

各地の高齢者施設を取材してきたジャーナリストの浅川澄一（すみかず）氏は、介護面での充実ぶりを判断するには、2種類のケアを考慮に入れるべきだと指摘する。

「高齢者のケアには、身体ケアと認知症のケアの2種類があります。身体ケアは機材やスタッフの技術のレベルを見れば、およそ提供される水準が判断できる。判断しにくいのは、認知症ケアのレベルなんです」

認知症は人によって意識が20代に戻ったり、30代に戻ったりと状態はバラバラ。その人の人生、ライフスタイルを丁寧に把握してこそ望ましい認知症ケアが可能になると浅川氏は言う。

「たとえば85歳以上の女性の場合、多くは専業主婦だった方です。進んでいる施設では、ジャガイモの皮をむいたりして、彼女たちに自ら食事を作ってもらう取り組みもしています。

私が現場を見て、認知症ケアに関して『いい施設』だと判断するのは、スタッフが入居者・利用者と一緒に食事を作って、一緒に食べている施設。誰かのために食事を作るという主婦のライフスタイルの維持にまで配慮しているからです」

左の表は、高齢者住宅のコンサルティングなどを行っているタムラプランニング&オペレーティングの協力を得て作成した、有料老人ホームの価格帯別の共用設備、サービスの水準の目安表だ。

もちろん運営方針や施設の種類などによって差異は大きい。たとえば、入居者の中心層が心身の健康な「自立型」の高級施設はレクリエーション設備などが充実しているが、逆に認知症や身体の障害など介護が必要な人が中心の「介護型」になれば、娯楽設備は減る。一方で人件費が余計にかかるため、月額費用は高めになることが多い。

金額だけではわからない

同社代表の田村明孝氏はこう解説する。

「そもそも有料老人ホームでは、入居費用としては家賃の前払い分しかとってはいけないとされている。ですから入居一時金の額は端的に言って居室の広さや設備の充実ぶりとリンクしていると考えていいでしょう。

表中の実人員配置は非常に重要な数字ですが、なかなか公表されておらず、私たちは独自に調べています。

介護付き有料老人ホームなら、法律上、実人員配置の最低基準はスタッフ1人に対して入居者3人と決まっていますが、実際これではまともな介護は無理です。2・5人でも、入居者が呼んでも介護職員がなかなか来ない。平均的には1・5人程度ですね」

さまざまなポイントのある表だが、実際に入居を考えるなら、単に施設・サービスの有無を確認するだけでは不十分と田村氏は話す。

「たとえば同一施設内に医療機関があると言っても、夜間まで医師がいるかはわからない。認知症への対応や看取りについて、広告に『行います』と書かれていても、実質対応していない施設も多い。これらは事業者の姿勢の問題で、金額の多寡では一概に判断できません。高い金額を払ったのだから、これくらいのサービスは提供されるはずなど

この値段ならここまでやって平均点
有料老人ホームの「施設」と「サービス」

月額費用は自立型よりも介護型のほうが高くなる傾向にある。また入居一時金が安い施設では逆に月額費用が高くなる場合がある

入居金価格帯	主な共用施設	イベント・サークル活動	スタッフ1人あたりの入居者数（実人員配置）	夜間看護師配置	医療機関との連携	認知症対応	看取り対応
5000万円以上	図書室、理美容室、フィットネスルーム、大浴場、食堂、シアタールーム、趣味の部屋	詩吟、音楽、美術・工芸、ダンス、スポーツ、旅行、映画鑑賞会、季節のイベント	1~1.5	24時間常駐	施設内・隣接地にクリニックあり	介護居室への住み替え含み、施設内でスタッフが対応	可能
実例 施設A（自立者向け・介護付き） 最多入居一時金 7900万円 最多月額費用 27.8万円	図書室、アトリエ、和室、ビューティーサロン、ラウンジ、麻雀室、ビリヤードルーム、大浴場	絵手紙、歌唱、陶器絵付け、グラスアート、園芸、ウクレレ、フランス刺繍、書道、囲碁、エクササイズ	0.98	24時間常駐	同一建物内にクリニックあり	音楽療法、陶芸などの作業療法、学習療法などに積極的に取り組む	入居者や意向に沿って専門スタッフが家族のサポート
5000万円未満	図書室、理美容室、大浴場、食堂、シアタールーム、趣味の部屋	詩吟、音楽、美術・工芸、ダンス、スポーツ、旅行、映画鑑賞会、季節のイベント	1~2	24時間常駐	施設内・隣接地にクリニックあり	介護居室への住み替え含み、施設内でスタッフが対応	可能
実例 施設B（自立者向け・介護付き） 最多入居一時金 4400万円 最多月額費用 16.9万円	図書室、サークル室、プール、フィットネスルーム、ヘアサロン	卓球、囲碁、俳句、生け花、カラオケ、太極拳、バードウォッチング	1.5	24時間常駐	同一建物内にクリニックあり	介護居室への住み替えを含めて対応	施設の説明に明記無し
3000万円未満	理美容室、大浴場、食堂、ゲストルーム、趣味の部屋	詩吟、音楽、美術、ダンス、スポーツ、旅行、季節のイベント	1~2	24時間常駐 or 看護師オンコール※2	隣接地にクリニックあり or周辺のクリニックと提携	介護居室への住み替え含み、施設内でスタッフが対応	可能
実例 施設C（要介護者向け・介護付き） 最多入居一時金 2500万円 最多月額費用 26.3万円	ファミリールーム、コミュニティルーム	音楽療法、園芸療法、絵画教室、歌舞伎鑑賞	1.26	24時間常駐	周辺に協力医療機関3軒	施設内で対応	可能
2000万円未満	理美容室、大浴場、食堂、ゲストルーム、趣味の部屋	詩吟、音楽、美術、ダンス、スポーツ、旅行、季節のイベント	1~2	24時間常駐 or 看護師オンコール	周辺のクリニックと提携	介護居室への住み替え含み、施設内でスタッフが対応	可能
実例 施設D（自立者向け・介護付き） 最多入居一時金 1780万円 最多月額費用 13.9万円	コミュニティホール、ラウンジ、売店、大浴場	フォークダンス、ゲートボール、麻雀、俳句、フラダンス	2	24時間常駐	同一建物内にクリニックあり	100%受け入れ可能	可能、退去者の7割は施設で看取り
1000万円未満	大浴場、食堂、集会室、趣味の部屋	音楽、美術、旅行、季節のイベント	1.5~2.5以上	看護師オンコール	周辺のクリニックと提携	受け入れは可能	可能or対応せず
実例 施設E（要介護者向け・介護付き） 最多入居一時金 990万円 最多月額費用 23.8万円	多目的ホール、大浴場、シアタールーム	お花見、運動会、映画・音楽鑑賞会	2.04	24時間常駐	協力医療機関3軒、歯科1軒	認知症可	可能
500万円未満	食堂、機能訓練室、浴室	音楽、美術、季節のイベント	1.5~2.5以上	看護師オンコールor配置なし	提携のクリニックあり	受け入れは可能	可能or対応せず
実例 施設F（要介護者向け・介護付き） 最多入居一時金 100万円 最多月額費用 35.6万円	リビング（食堂兼機能訓練室）	外食や外出	1.88	看護師オンコール	協力医療機関2軒	受け入れは可能	可能
100万円未満※1	食堂、機能訓練室、浴室	音楽、美術、季節のイベント	1.5~3（3以上は法令違反）	看護師オンコールor配置なし	提携のクリニックあり	受け入れは可能	可能or対応せず
実例 施設G（要介護者向け・介護付き） 最多入居一時金 80万円 最多月額費用 29.3万円	食堂、健康管理室、休憩室、洗濯室	お花見、紅葉狩り、誕生会	1.69	配置なし	周辺に協力医療機関2軒、歯科1軒	受け入れは可能	可能

※1 入居金0円を含む　※2 看護師オンコールとは看護師が施設外から30分以内程度で駆けつけること　（表作成:タムラプランニング&オペレーティング）

と思い込まず、事前に現地に行って見学をし、サービスを体験するのが重要です」

数日程度の体験入居を行っている施設も多い。とにかく、資料などに頼り切らず、自分の目で厳しく実情を見ることが大切だ。

看取りについて全国でも先進的な取り組みを進める世田谷区の特別養護老人ホーム「芦花ホーム」の石飛幸三医師はこう指摘する。

「医者のエゴでも、家族のエゴでもなく、本人の意思に沿って、最期を穏やかに迎えてもらう。それはときには、延命治療を押し付けないことかもしれない。高齢者は、最期の3ヵ月で貯蓄の半分以上を使うとも言われます。その3ヵ月をどう過ごすのか。本人と正面から向き合って話し合ってくれる施設こそが、本当にいい老人ホームなのではないでしょうか」

終の棲家（ついのすみか）に何を求めるのか。家庭の問題や病気などで追い込まれる前に、どこまで真剣に考えておけるかで、老人ホーム格差を乗り越えられるかが決まるのだ。